治療するために大切なこととは？

ひとりの患者様を通して
見る視点→評価→統合と解釈→治療方法
一連の流れを徹底的に教えるセミナー

どこまで深く考えるか！？

本日の患者様

・性別：男性
・年齢：30代

ここから、
どんな評価を
しますか？

本日の患者様

①まずは情報収集を行う

- 右重心
- 左麻痺
- 頸部右側屈
- 右上肢の過剰努力
- 左下肢外転・外旋
- 右上肢弛緩性麻痺

情報収集の目的とは？

この情報から何をどの順番でリハビリすればいいの？
何が良くなったら、何が変わるの？
目標設定は何？どうやって決めるの？

本日の患者様

全てに関連性がある
目的が明確なリハビリ

＜ゴール＞
治療部位と
治療方法の
選択

＜評価＞
仮説が本当に
あっているの？
という評価

＜原因追及＞
なぜ、その目標が
達成できていいない
のかの原因の仮説

＜目標設定＞
何を目指すかに
よって何が必要な
リハビリか？

＜スタート＞
治療部位と
治療方法の
選択を目的とした
情報収集

解離

評価を使えない。

＜ゴール＞
治療方法を選択
なにを治すリハビリ？

本日の患者様

①まずは情報収集を行う

【目標設定をするための情報を収集する】

・性別：男性
・年齢：30代～４０代

最終ゴール設定：仕事復帰
追加評価：仕事内容の確認

・家族構成：ご両親が健在の可能性＋

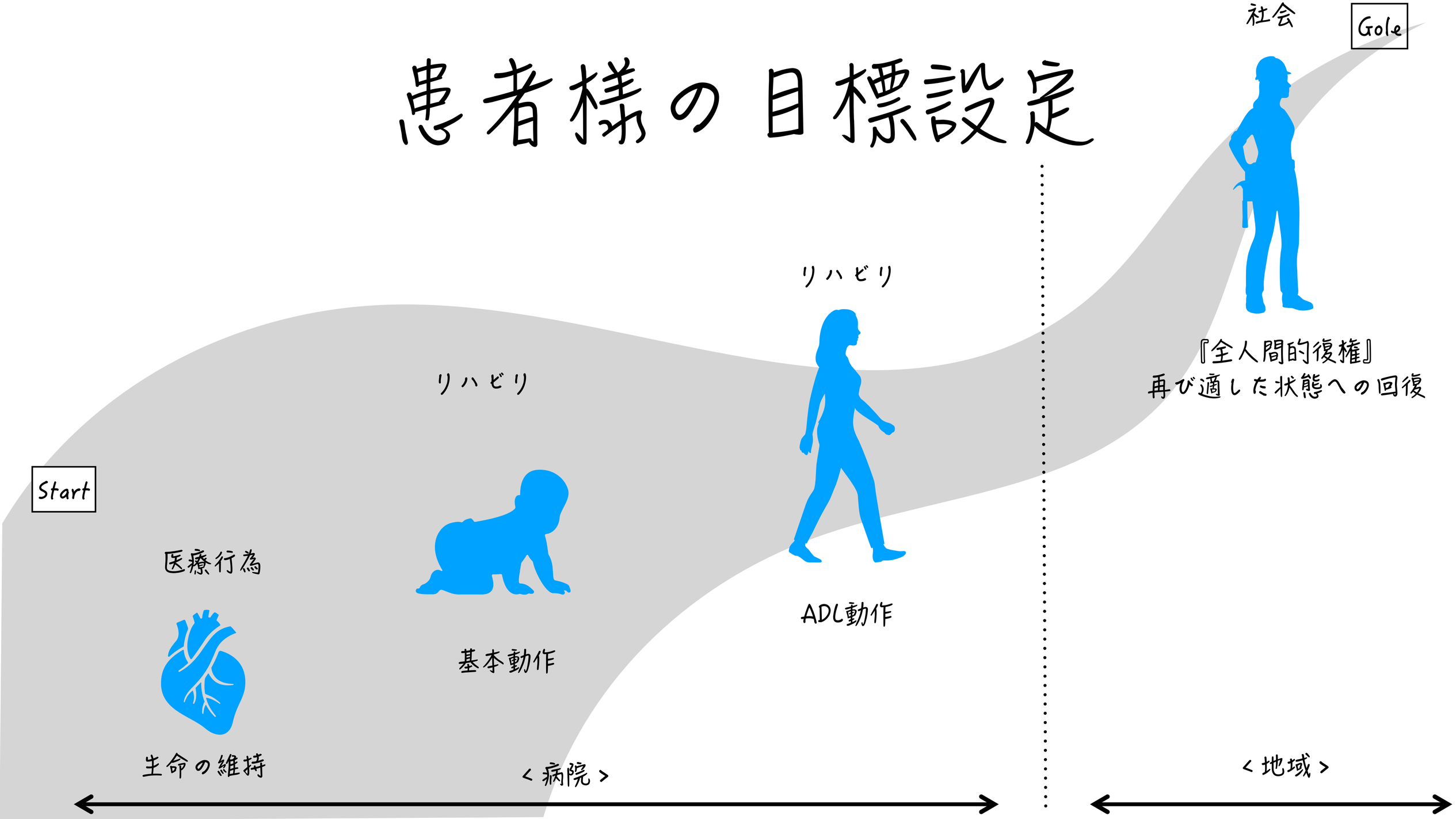
・今できる身体機能

① 端座位保持

・今回の障害後遺症（障害部位）

① 右上肢
② 右下肢
③ 装具
④ 座位姿勢（構え）

患者様の目標設定


社会
Gole
リハビリ
『全人間的復権』
再び適した状態への回復
リハビリ
Start
医療行為
基本動作
ADL動作
生命の維持
＜病院＞
＜地域＞

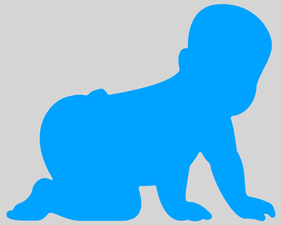
患者様の目標設定

Start

医療行為

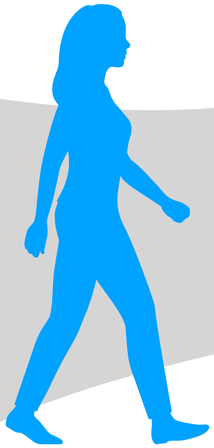
生命の維持

リハビリ



基本動作

リハビリ



ADL動作

＜病院＞

社会

Gole

再び適した状態への回復

３０代・男性

国民３大義務
教育・勤労・納税

勤労し納税すべし！！

職業復帰

＜地域＞

本日の患者様

①まずは情報収集を行う

【目標設定をするための情報を収集する】

・性別：男性
・年齢：30代

最終ゴール設定：仕事復帰
追加評価：仕事内容の確認

・家族構成：ご両親が健在の可能性＋

自宅での役割設定
家事の必要性を検討する
これによって入院期間
生活スタイルが決まる

・今できる身体機能

① 端座位保持

・今回の障害後遺症（障害部位）

① 右上肢
② 右下肢
③ 装具
④ 座位姿勢（構え）

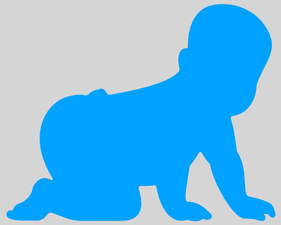
患者様の目標設定

Start

医療行為

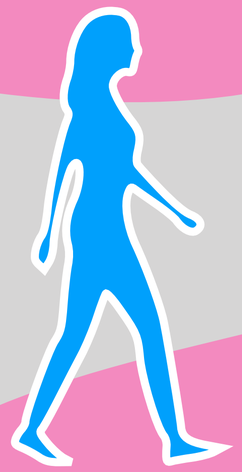
生命の維持

リハビリ



基本動作
＜端座位保持可能＞

リハビリ



ADL動作→家事動作

自分のケア→自分で生活

＜病院＞

社会

Gole

『全人間的復権』
再び適した状態への回復

３０代・男性

国民３大義務
教育・勤労・納税

勤労し納税すべし！！

職業復帰

＜地域＞

本日の患者様

全てに関連性がある
目的が明確なリハビリ

＜ゴール＞
治療部位と
治療方法の
選択

＜評価＞
仮説が本当に
あっているの？
という評価

短期目標を
ADL獲得
(セルフケア)
でいいのか？

＜原因追及＞
なぜ、その目標が
達成できていいない
のかの原因の仮説

＜目標設定＞
①職業復帰
②家事獲得
③ADL獲得

①社会復帰
②一人で生活
③セルフケア
④

＜スタート＞
治療部位と
治療方法の
選択を目的とした
情報収集

解離

評価を使えない。

＜ゴール＞
治療方法を選択
なにを治すリハビリ？

本日の患者様

ここからどう仮説評価を進めていくのか？

①まずは情報収集を行う

【目標設定をするための情報を収集する】

・性別：男性
・年齢：30代

最終ゴール設定：仕事復帰
追加評価：仕事内容の確認

・家族構成：ご両親が健在の可能性＋

自宅での役割設定
家事の必要性を検討する
これによって入院期間
生活スタイルが決まる

・今できる身体機能

① 端座位保持

現状段階の評価
今何ができるかによって
現在の生活背景を想像

・今回の障害後遺症（障害部位）

① 右上肢
② 右下肢
③ 装具
④ 座位姿勢（構え）

障害の原因仮説に必要な情報
気になる部分が障害を受けた原因
である可能性が高い部分
＝治療部位の可能性＋

評価治療における階層的思考展開

ここまでが、できるADLと言われ
どの程度動作として遂行可能か？ということを
問われる。しかし、この身体機能などの
動作だけでいいのかいうとそうではない。

セルフケア

食事 | 整容 | 清拭 | 更衣上衣 | 更衣下衣 | トイレ

移動した先にあるのが、自分自身をケアするという意味のセルフケア動作が待っている。人が生きて行く為にはご飯を食べるという食事動作、排泄物を出すというトイレ動作、感染などから身を守る清拭・更衣、そして、他者とコミュニケーションをとり社会の中に入っていくための整容動作がある。

移乗・移動動作

階段

車椅子移動

歩行

移乗（ベッド・車椅子・椅子・トイレ）

寝た状態から起き上り姿勢を保持しるという基本動作を獲得すると、何か目的を達成したい、するという意欲から動作や行為が発生する。
目的達成はその場で可能なものもあるが、その大半がどこかへ移動することがことによって達成される。
移動には、３段回あり
・近くのものに乗り移る移乗動作
・道具を利用する車椅子移動（下肢の障害・上肢にて代償する手段）
・人間特有の２足歩行
そして、最後にあるのが目的達成の弊害なる段差や階段といってれ平面ではない重心移動である階段昇降がある

基本動作

臥位 | 寝返り | 起き上り | 座位 | 立ち上り | 立位

基本動作というのは、全ての動作における基本（基礎・基盤）になる部分、この基本が障害されるとその上にある全ての動作に問題が発生する。
基本動作の獲得は地球上で生活するという行為において最も大切な能力である。

認知

- コミュニケーション
- 社会的認知

人は、できる動作の中から、今の状況・感情・身体的機能から何をそうするのか？という『選択』を行います。この『選択』こそが認知であり、コミュニケーションや社会的認知が必要となります。できるのにしない・・・できるADLとしているADLが違う原因もここにあります。

セルフケア

- 食事
- 整容
- 清拭
- 更衣上衣
- 更衣下衣
- トイレ

移動した先にあるのが、自分自身をケアするという意味のセルフケア動作が待っている。人が生きて行く為にはご飯を食べるという食事動作、排泄物を出すというトイレ動作、感染などから身を守る清拭・更衣、そして、他者とコミュニケーションをとり社会の中に入っていくための整容動作がある。

移乗・移動動作

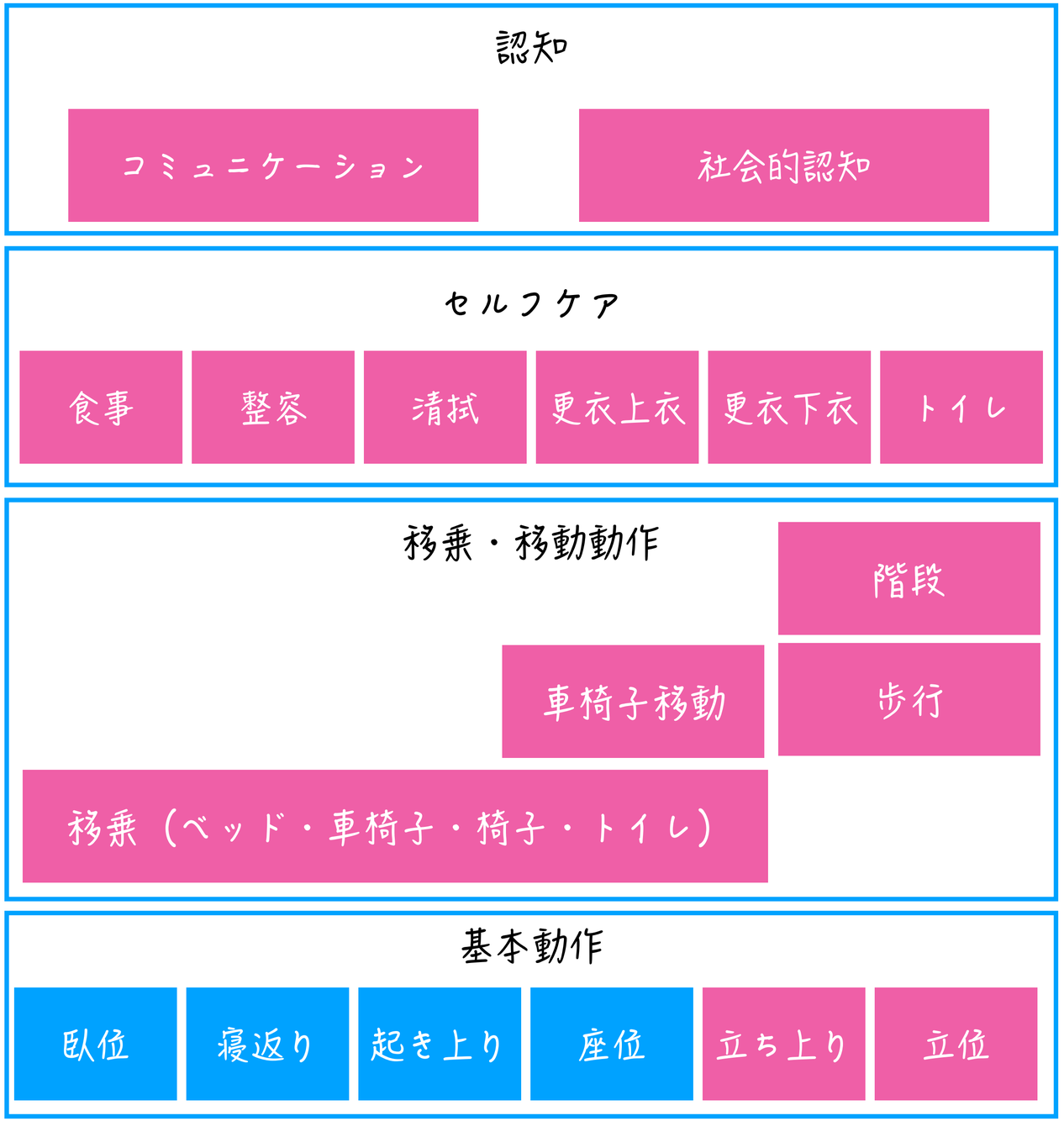
- 階段
- 車椅子移動
- 歩行
- 移乗（ベッド・車椅子・椅子・トイレ）

寝た状態から起き上り姿勢を保持しるという基本動作を獲得すると、何か目的を達成したい、するという意欲から動作や行為が発生する。
目的達成はその場で可能なものもあるが、その大半がどこかへ移動することがことによって達成される。
移動には、３段回あり
・近くのものに乗り移る移乗動作
・道具を利用する車椅子移動（下肢の障害・上肢にて代償する手段）
・人間特有の２足歩行
そして、最後にあるのが目的達成の弊害なる段差や階段といってれ平面ではない重心移動である階段昇降がある

基本動作

- 臥位
- 寝返り
- 起き上り
- 座位
- 立ち上り
- 立位

基本動作というのは、全ての動作における基本（基礎・基盤）になる部分、この基本が障害されるとその上にある全ての動作に問題が発生する。
基本動作の獲得は地球上で生活するという行為において最も大切な能力である。



基礎の部分
基本動作の立ち上がりと立位ができないとどうなるのでしょうか？

全てに問題が起こる。

↓

ポイントは、立ち上がりと立位が問題な場合
という階層的ポイントを知っているかということ！！

↓

これがわかっていないと・・・
トイレはトイレ
歩行は歩行
コミュニケーションはコミュニケーション
と単独で評価とリハビリが必要。

↓

そうすると
何から見ていいかわからない。
何が原因かわからない。
なんのリハビリをしていいかわからない。
何が良くなるかわからない。
ADLにつながらない。
という現象が起こる。

本日の患者様

ここからどう仮説評価を進めていくのか？

①まずは情報収集を行う

【目標設定をするための情報を収集する】

・性別：男性
・年齢：30代～４０代

最終ゴール設定：仕事復帰
追加評価：仕事内容の確認

・家族構成：ご両親が健在の可能性＋

自宅での役割設定
家事の必要性を検討する
これによって入院期間が決まる

・今できる身体機能

① 端座位保持

現状段階の評価
今何ができるかによって
現在の生活背景を想像

・今回の障害後遺症（障害部位）

① 右上肢
② 右下肢
③ 装具
④ 座位姿勢（構え）

障害の原因仮説に必要な情報
気になる部分が障害を受けた原因
である可能性が高い部分
＝治療部位の可能性＋

認知

- コミュニケーション
- 社会的認知

人は、できる動作の中から、今の状況・感情・身体的機能から何をそうするのか？という『選択』を行います。この『選択』こそが認知であり、コミュニケーションや社会的認知が必要となります。できるのにしない・・・できるADLとしているADLが違う原因もここにあります。

セルフケア

- 食事
- 整容
- 清拭
- 更衣上衣
- 更衣下衣
- トイレ

移動した先にあるのが、自分自身をケアするという意味のセルフケア動作が待っている。人が生きて行く為にはご飯を食べるという食事動作、排泄物を出すというトイレ動作、感染などから身を守る清拭・更衣、そして、他者とコミュニケーションをとり社会の中に入っていくための整容動作がある。

移乗・移動動作

- 階段
- 車椅子移動
- 歩行
- 移乗（ベッド・車椅子・椅子・トイレ）

寝た状態から起き上り姿勢を保持しるという基本動作を獲得すると、何か目的を達成したい、するという意欲から動作や行為が発生する。
目的達成はその場で可能なものもあるが、その大半がどこかへ移動することがことによって達成される。
移動には、３段回あり
・近くのものに乗り移る移乗動作
・道具を利用する車椅子移動（下肢の障害・上肢にて代償する手段）
・人間特有の２足歩行
そして、最後にあるのが目的達成の弊害なる段差や階段といってれ平面ではない重心移動である階段昇降がある

基本動作　　評価項目：起き上り・立ち上り・立位

- 臥位
- 寝返り
- 起き上り
- 座位
- 立ち上り
- 立位

基本動作というのは、全ての動作における基本（基礎・基盤）になる部分、この基本が障害されるとその上にある全ての動作に問題が発生する。
基本動作の獲得は地球上で生活するという行為において最も大切な能力である。

基本動作　立ち座り・立位評価

左右の寝返り

右からの起き上り

左からの起き上り

認知

コミュニケーション

社会的認知

セルフケア

食事 | 整容 | 清拭 | 更衣上衣 | 更衣下衣 | トイレ

移乗・移動動作

階段

車椅子移動

歩行

移乗（ベッド・車椅子・椅子・トイレ）

現状では、移乗・移動・セルフケア動作を獲得に短期目標設定していく必要がある

移乗・移動動作はどうか？

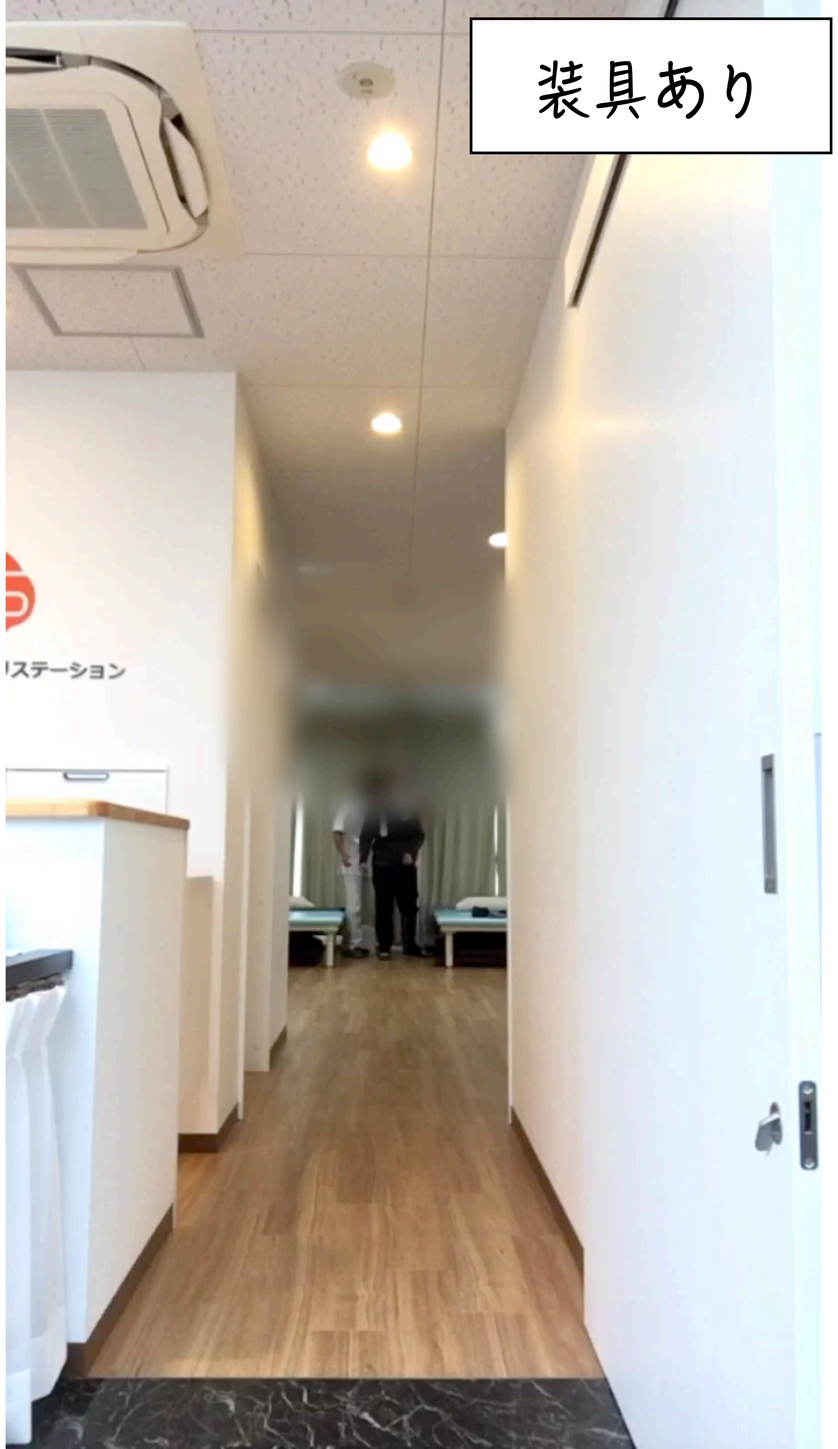
→次はここの評価が必要

基本動作　　評価項目：起き上り・立ち上り・立位

臥位 | 寝返り | 起き上り | 座位 | 立ち上り | 立位

動作レベルとしては、当初気になっていた立ち上がり、立位、そして起き上りが可能である。基本動作ができるということは、姿勢の変化が可能であるということが理解できる。姿勢は対位（バランス）と構え（アライメント）からなる今回の患者様はバランス機能においては基本動作獲得可能レベルである。しかし、構えにおいては左右差が多く、質の改善は必要である。

杖＋装具


装具あり

装具なし

認知

- コミュニケーション
- 社会的認知

杖なし歩行（物を運べる）→　装具なし歩行(入浴・更衣)

セルフケア

- 食事
- 整容
- 清拭
- 更衣上衣
- 更衣下衣
- トイレ

・家の中での歩行→装具なし歩行

・物を持てる・運べること。→病院でも自宅でも同じ（杖なし）

移乗・移動動作

- 階段
- 車椅子移動
- 歩行
- 移乗（ベッド・車椅子・椅子・トイレ）

セルフケアを獲得するために
必要な歩行とは？

・杖＋装具：独歩可能レベル
・装具あり：見守り必要レベル
・装具なし：軽介助レベル

基本動作　　評価項目：起き上り・立ち上り・立位

- 臥位
- 寝返り
- 起き上り
- 座位
- 立ち上り
- 立位

動作レベルとしては、当初気になっていた立ち上がり、立位、そして起き上りが可能である。基本動作ができるということは、姿勢の変化が可能であるということが理解できる。姿勢は対位（バランス）と構え（アライメント）からなる今回の患者様はバランス機能においては基本動作獲得可能レベルである。しかし、構えにおいては左右差が多く、質の改善は必要である。

本日の患者様

<ゴール>
治療部位と
治療方法の
選択

<評価>
仮説が本当に
あっているの？
という評価

<短期目標①>
杖なし歩行（物を運べる）
→　装具なし歩行(入浴・更衣)

<原因追及>
なぜ、その目標が
達成できていいない
のかの原因の仮説

基本動作獲得
以上の目標設定

<目標設定>
①職業復帰
②家事獲得
③ADL獲得

①社会復帰
②一人で生活
③セルフケア
④

<スタート>
治療部位と
治療方法の
選択を目的とした
情報収集

解離

評価を使えない。

<ゴール>
治療方法を選択
なにを治すリハビリ？

認知

- コミュニケーション
- 社会的認知

セルフケア

- 食事
- 整容
- 清拭
- 更衣上衣
- 更衣下衣
- トイレ

移乗・移動動作

- 階段
- 車椅子移動
- 歩行
- 移乗（ベッド・車椅子・椅子・トイレ）

基本動作　評価項目：起き上り・立ち上り・立位

- 臥位
- 寝返り
- 起き上り
- 座位
- 立ち上り
- 立位

→次はここの評価が必要

杖なし歩行（物を運べる）
→　装具なし歩行(入浴・更衣)

・家の中での歩行→装具なし歩行
・物を持てる・運べること。→病院でも自宅でも同じ（杖なし）
・杖＋装具：独歩可能レベル
・装具あり：見守り必要レベル
・装具なし：軽介助レベル

動作レベルとしては、当初気になっていた立ち上がり、立位、そして起き上りが可能である。基本動作ができるということは、姿勢の変化が可能であるということが理解できる。姿勢は対位（バランス）と構え（アライメント）からなる今回の患者様はバランス機能においては基本動作獲得可能レベルである。しかし、構えにおいては左右差が多く、質の改善は必要である。

＜動作＞	＜特徴＞	＜上肢の役割＞	＜獲得難易度＞	＜獲得必要度＞	＜片手代償難易度＞
食事	両手動作を必要とする	左右が違う役割	★★★★★	☆☆☆☆☆	★
整容		片手＋左右同じ動き	★★	☆☆	★★
清拭		片手＋左右が違う	★★	☆☆☆	★★
更衣上衣		左右が違う役割	★★★	☆☆	★★★
更衣下衣	両手動作を必要とする＋下肢機能	左右同じ＋両下肢	★★★★	☆☆	★★★★★
トイレ		両手操作 移乗・移動 基本動作	★★★★★	☆☆☆☆☆	★★★★

＊運動機能を中心としており認知機能などは考慮しない

考案：山本秀一朗

認知

- コミュニケーション
- 社会的認知

セルフケア

- 食事
- 整容
- 清拭
- 更衣上衣
- 更衣下衣
- トイレ

移乗・移動動作

- 階段
- 車椅子移動
- 歩行
- 移乗（ベッド・車椅子・椅子・トイレ）

歩行や移動・基本動作を必要とする
下肢機能の改善とセルフケアに必要な
上肢機能の改善を含めた、トイレ動作獲得を目的とする

杖なし歩行（物を運べる）
→　装具なし歩行(入浴・更衣)

- 家の中での歩行→装具なし歩行
- 物を持てる・運べること。→病院でも自宅でも同じ（杖なし）
- 杖＋装具：独歩可能レベル
- 装具あり：見守り必要レベル
- 装具なし：軽介助レベル

基本動作　　評価項目：起き上り・立ち上り・立位

- 臥位
- 寝返り
- 起き上り
- 座位
- 立ち上り
- 立位

動作レベルとしては、当初気になっていた立ち上がり、立位、そして起き上りが可能である。基本動作ができるということは、姿勢の変化が可能であるということが理解できる。姿勢は対位（バランス）と構え（アライメント）からなる今回の患者様はバランス機能においては基本動作獲得可能レベルである。しかし、構えにおいては左右差が多く、質の改善は必要である。

本日の患者様

<短期目標②>
セルフケアに使える
上肢機能と下肢機能の獲得

<短期目標①>
杖なし歩行（物を運べる）
→　装具なし歩行(入浴・更衣)

<短期目標>
装具なしでの
トイレ動作
獲得

<ゴール>
治療部位と
治療方法の
選択

<評価>
仮説が本当に
あっているの？
という評価

<原因追及>
なぜ、その目標が
達成できていいない
のかの原因の仮説

基本動作獲得
以上の目標設定

<目標設定>
①職業復帰
②家事獲得
③ADL獲得

①社会復帰
②一人で生活
③セルフケア
④トイレ動作の獲得

トイレ動作を評価して
何を治療するか？
↓
動作反復練習に・・

<スタート>
治療部位と
治療方法の
選択を目的とした
情報収集

解離

評価を使えない。

<ゴール>
治療方法を選択
なにを治すリハビリ？

原因追及　動作からどう考える？

行為

行為は、動作の意図とそのときの状況によって定められ、
それのもつ社会的、文化的な意味と場面との
関係性によって成り立つものである。

動作

動作は、運動によって達成された結果であり、
運動によって行われる具体的な仕事であり、身体性をもつ。

運動

運動は、身体各部位の空間的位置の変化、
すなわち姿勢が連続的に変化したものである。

参加

＜社会性＞
しているADL
高次脳機能

活動

＜動作障害＞
できるADL
動作分析

身体機能

＜症状＞
運動麻痺
感覚障害

本日の患者様

ここからどう仮説評価を進めていくのか？

①まずは情報収集を行う

【目標設定をするための情報を収集する】

・性別：男性
・年齢：30代～４０代

最終ゴール設定：仕事復帰
追加評価：仕事内容の確認

・家族構成：ご両親が健在の可能性＋

自宅での役割設定
家事の必要性を検討する
これによって入院期間が決まる

・今できる身体機能

現状段階の評価
今何ができるかによって
現在の生活背景を想像

① 端座位保持

＊構えから考える

・今回の障害後遺症（障害部位）

障害の原因仮説に必要な情報
気になる部分が障害を受けた原因
である可能性が高い部分
＝治療部位の可能性＋

① 右上肢
② 右下肢
③ 装具
④ 座位姿勢（構え）

＊なぜ、この姿勢なのか？なぜが大切

本日の患者様

治療選択の１つの
ポイント

姿勢（構え）
トイレ動作が気になる
なぜ上手くできない？

基本動作獲得
以上の目標設定

＜ゴール＞
治療部位と
治療方法の
選択

＜評価＞
仮説が本当に
あっているの？
という評価

＜原因追及＞
左上・下肢
姿勢
この３つが
問題となる仮説

＜目標設定＞
①職業復帰
②家事獲得
③ADL獲得

①社会復帰
②一人で生活
③セルフケア
④トイレ動作の獲得

＜スタート＞
治療部位と
治療方法の
選択を目的とした
情報収集

解離

評価を使えない。

＜ゴール＞
治療方法を選択
なにを治すリハビリ？

【まずは客観的に現象から仮説・評価すべきことを考える】

・上下肢に左右差あり
右上肢は膝の上であるのにかかわらず、左上肢はだらんとしている
右上肢を本来あるべき状況とするならば、左上肢は本来あるべき状態ではないと捉える。→本来あるべき状態ではない→麻痺→麻痺には、運動麻痺と感覚麻痺がある。
→上下肢の原因は運動麻痺か感覚麻痺である可能性が高い。

＜評価＞
運動麻痺：随意運動評価
感覚麻痺：深部感覚評価（位置覚→運動覚）
でも可動域が原因でなってる場合もあるため
→可動域評価→随意運動評価→深部感覚感覚評価

＜どこから始める？＞
随意性という概念なら→手指のグーパー　指折り　足関節底背屈
位置覚という概念なら→肩外転位・肘屈曲位　股関節の内転・内旋
運動覚という概念なら→肩内転・肘伸展　股関節の外転・外旋

＜目的＞
現状この姿勢が気になり、この姿勢の原因が運動・感覚麻痺が原因であると考えられる。この原因はこの原因はADLの場面でも同じように問題になると考えられる。

【まずは客観的に現象から仮説・評価すべきことを考える】

・装具を使用している（金属支柱・ダブルクレンザック）
→立ち上がり・歩行時に足関節になんらかの問題がある。金属支柱であることか固定性が必要であることがわかる。ベルトが４本　通常より１本多いこともあり内反の可能性が高い。この装具自体足関節には可動性を持たせているため、足関節の可動性があると考える。また、歩行練習を行なってきた可能性が高いが素足での歩行には問題があるレベル。

＜評価＞
支持性・固定性評価：弛緩性の可能性があるため、筋緊張評価
内反（異常筋緊張）評価：痙性の有無を評価
可動域制限の可能性もあるため、足関節の底背屈の制限
歩行練習を行なってきた経緯：現状の歩行能力

＜どこから始める？＞
弛緩性（支持性）という概念なら→股関節の筋緊張評価（中枢）
痙性（内反）という概念なら→足関節背屈の筋緊張評価（抹消）

＜目的＞
現状この姿勢が気になり、この姿勢の原因が弛緩性と痙性の２つが混在してる部分が原因であると考えられる。この原因はADLの場面でも同じように問題になると考えられる。

【まずは客観的に現象から仮説・評価すべきことを考える】

・上肢がだらんとしている
右上肢は膝の上であるのにかかわらず、左上肢はだらんとしている。
1つの原因は運動麻痺である。運動麻痺は骨格筋の障害であり、骨格筋が収縮せず、肘を曲げるなどの運動ができないことは理解きるが
、だらんとしている理由にはならない。下肢に弛緩性＋痙性が考えられることから上肢（中枢）にも弛緩性＋痙性の可能性があると仮説する

＜評価＞
肩関節周囲の筋緊張評価：弛緩性の可能性があるため、筋緊張評価
痙性（異常筋緊張）評価：手指・手関節・肘関節の痙性の有無を評価

＜どこから始める？＞
中枢部の弛緩性評価：肩関節の亜脱臼評価・各関節各可動域での速度評価
抹消部の痙性評価：肘伸展・回外・背屈・手指伸展の速度評価

＜目的＞
現状この姿勢が気になり、この姿勢の原因が弛緩性と痙性の2つが混在してる部分が原因であると考えられる。この原因はADLの場面でも同じように問題になると考えられる。

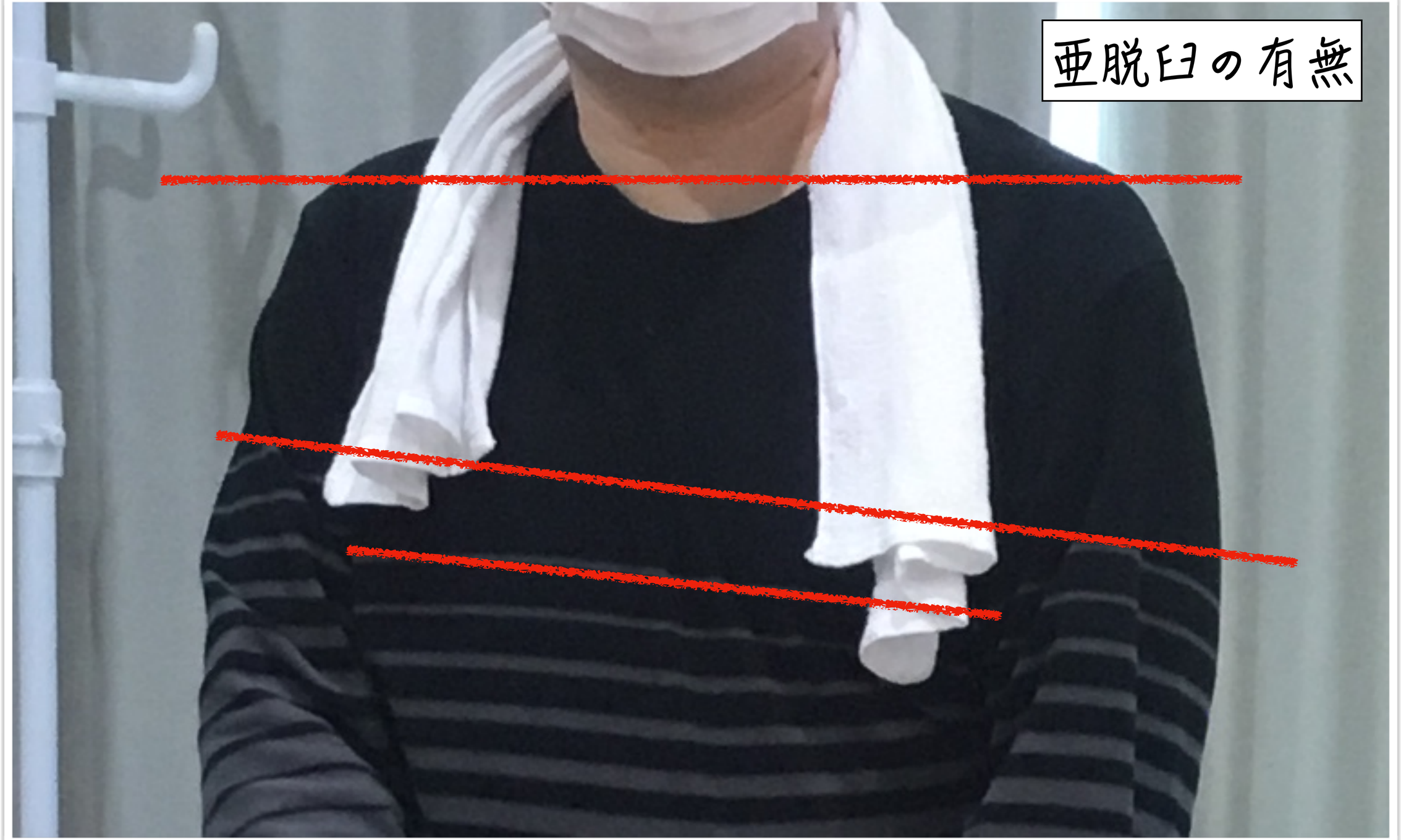
【まずは客観的に現象から仮説・評価すべきことを考える】

・上肢がだらんとしている
右上肢は膝の上であるのにかかわらず、左上肢はだらんとしている。
1つの原因は運動麻痺である。運動麻痺は骨格筋の障害であり、骨格筋が収縮せず、肘を曲げるなどの運動ができないことは理解きるが
、だらんとしている理由にはならない。下肢に弛緩性＋痙性が考えられることから上肢（中枢）にも弛緩性＋痙性の可能性があると仮説する

＜評価＞
肩関節周囲の筋緊張評価：弛緩性の可能性があるため、筋緊張評価
痙性（異常筋緊張）評価：手指・手関節・肘関節の痙性の有無を評価

＜どこから始める？＞
中枢部の弛緩性評価：肩関節の亜脱臼評価・各関節各可動域での速度評価
抹消部の痙性評価：肘伸展・回外・背屈・手指伸展の速度評価

＜目的＞
現状この姿勢が気になり、この姿勢の原因が弛緩性と痙性の2つが混在してる部分が原因であると考えられる。この原因はADLの場面でも同じように問題になると考えられる。


亜脱臼の有無

本日の患者様

これらの症状が原因でトイレ・・

治療選択の１つの
ポイント

＜ゴール＞
治療部位と
治療方法の
選択

＜評価＞
基本動作
上肢下肢の
運動感覚麻痺
筋緊張評価
可動域評価

姿勢（構え）
トイレ動作が気になる
なぜ上手くできない？

＜原因追及＞
左上・下肢
姿勢
この３つが
問題となる仮説

評価してみよう！

基本動作獲得
以上の目標設定

＜目標設定＞
①職業復帰
②家事獲得
③ADL獲得

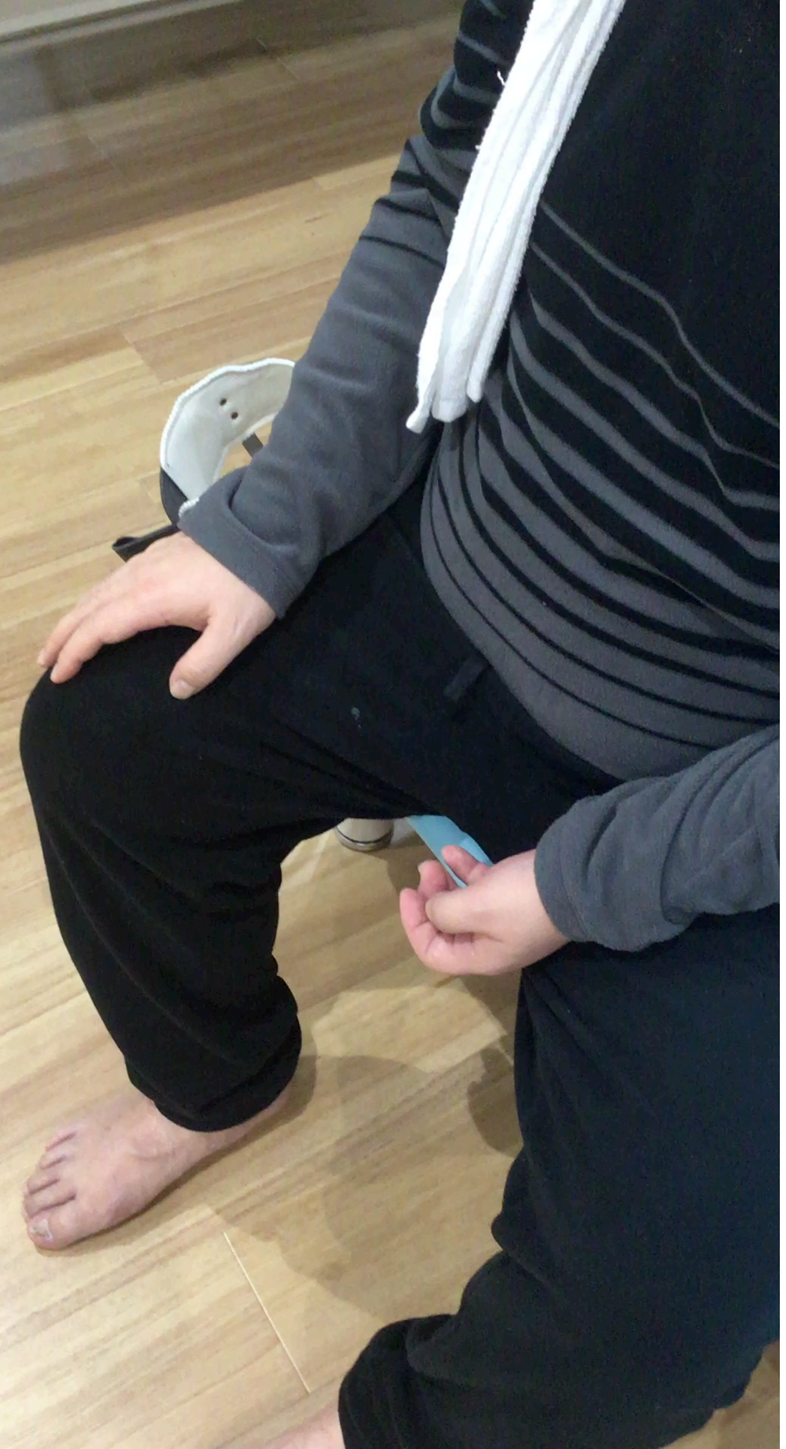
①社会復帰
②一人で生活
③セルフケア
④トイレ動作の獲得

＜スタート＞
治療部位と
治療方法の
選択を目的とした
情報収集

解離

評価を使えない。

＜ゴール＞
治療方法を選択
なにを治すリハビリ？

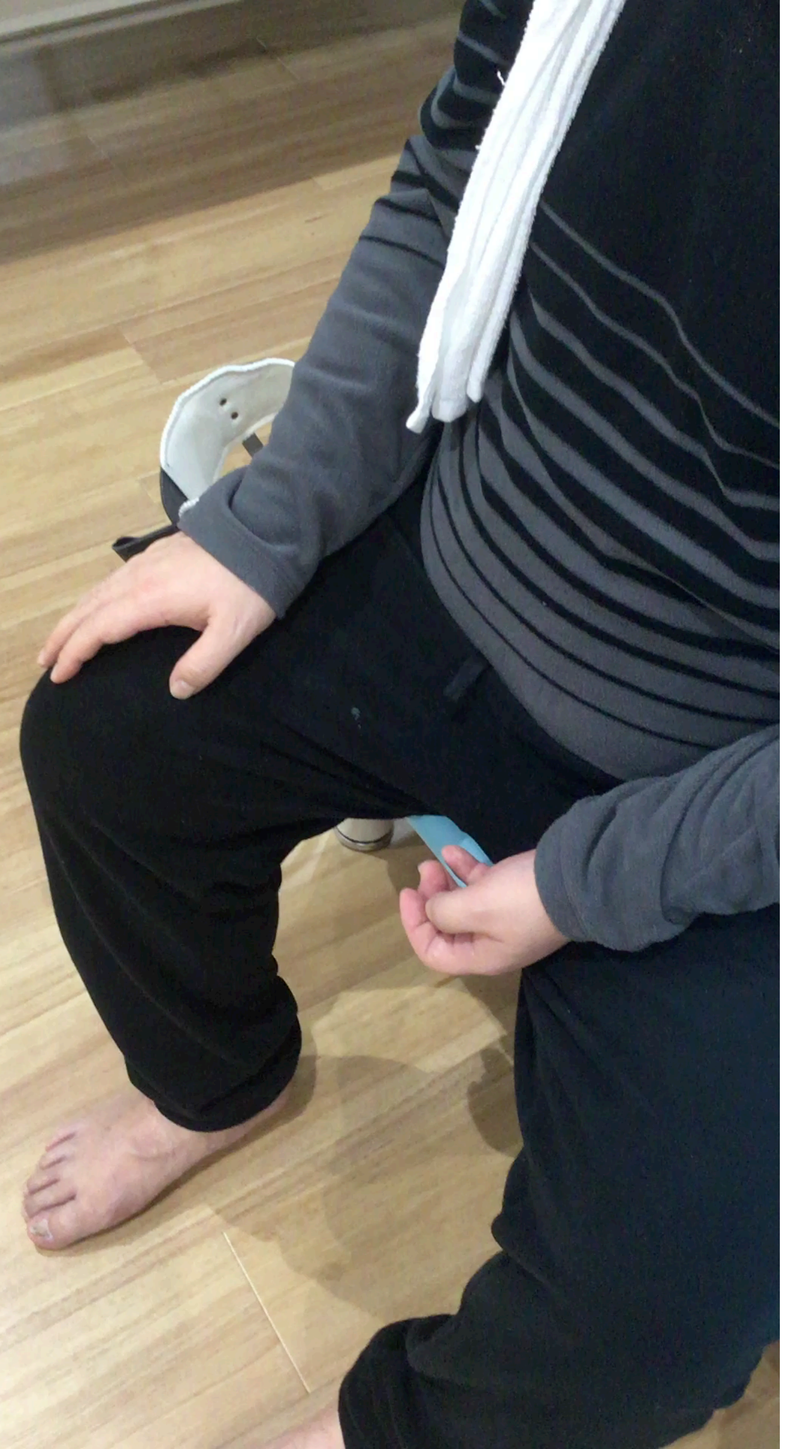


＜何を見ていくのか？＞ → 見る視点　①トイレ動作獲得に向けて必要な上肢機能

↓

見る視点②　手が動くのかどうか？　目的：随意運動の有無

- 手を動かしてください
  - 動く
    - 手指だけ動く — 正常
    - 手指以外も動く
      - 肩や肘も動く — 麻痺＋共同運動
      - 対側も動く — 麻痺＋連合反応
  - 動かない
    - 他動で動く — 運動麻痺
    - 他動で動かない — 関節可動域制限



＜何を見ていくのか？＞ → 見る視点　①トイレ動作獲得に向けて必要な上肢機能

↓

見る視点②　手が動くのかどうか？　目的：随意運動の有無

- 手を動かしてください
  - 動く
    - 手指だけ動く ― 正常
    - 手指以外も動く
      - 肩や肘も動く ― 麻痺＋共同運動
      - 対側も動く ― 麻痺＋連合反応
  - 動かない
    - 他動で動く ― 運動麻痺
    - 他動で動かない ― 関節可動域制限

＜動作からわかること＞

左手指には運動麻痺がある。運動麻痺は、随意的に骨格筋の収縮ができず、空間的位置変化（運動）が行えないことである。

共同運動は、脊柱間の縦への放散反応であり、収束できていないこと。

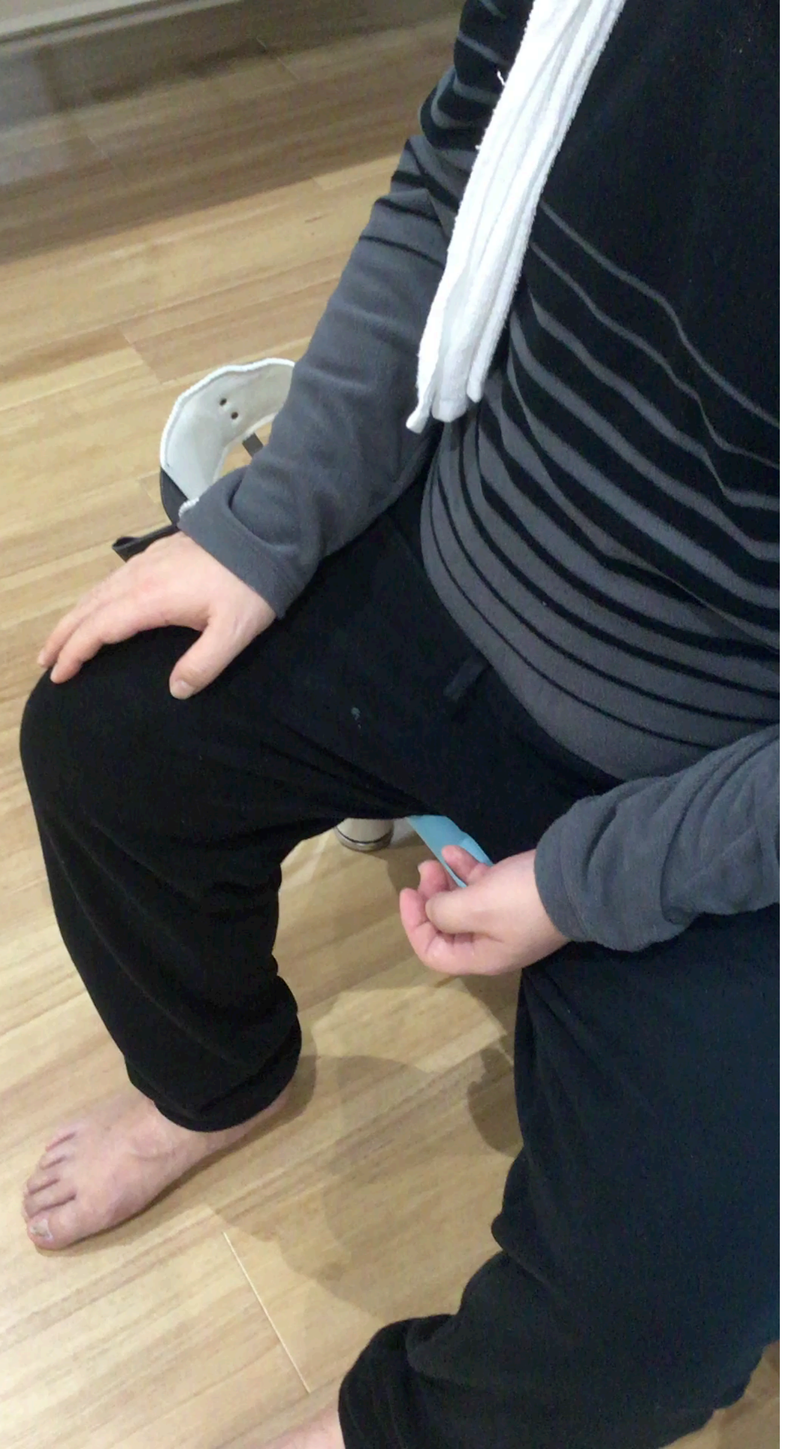
分離して動かせないことも運動麻痺である証拠である。

①左手を使うADL、両手動作が必要なADLに問題が起こることがわかる。

＜動作＞	＜特徴＞	＜上肢の役割＞	＜獲得難易度＞	＜獲得必要度＞	＜片手代償難易度＞
食事		左右が違う役割	★★★★★	☆☆☆☆☆	★
整容	両手動作を必要とする	片手＋左右同じ動き	★★	☆☆	★★
清拭		片手＋左右が違う	★★	☆☆☆	★★
更衣上衣		左右が違う役割	★★★	☆☆	★★★
更衣下衣	両手動作を必要とする＋下肢機能	左右同じ＋両下肢	★★★★	☆☆	★★★★★
トイレ		両手操作 移乗・移動 基本動作	★★★★★	☆☆☆☆☆	★★★★

＊運動機能を中心としており認知機能などは考慮しない

考案：山本秀一朗



＜何を見ていくのか？＞ → 見る視点　①トイレ動作獲得に向けて必要な上肢機能

↓

見る視点②　手が動くのかどうか？　目的：随意運動の有無

- 手を動かしてください
  - 動く
    - 手指だけ動く ― 正常
    - 手指以外も動く
      - 肩や肘も動く ― 麻痺＋共同運動
      - 対側も動く ― 麻痺＋連合反応
  - 動かない
    - 他動で動く ― 運動麻痺
    - 他動で動かない ― 関節可動域制限

＜動作からわかること＞

左手指には運動麻痺がある。運動麻痺は、随意的に骨格筋の収縮ができず、空間的位置変化（運動）が行えないことである。

共同運動は、脊柱間の縦への放散反応であり、収束できていないこと。

分離して動かせないことも運動麻痺である証拠である。

①左手を使うADL、両手動作が必要なADLに問題が起こることがわかる。

＜何を見ていくのか？＞ → 見る視点　①トイレ動作獲得に向けて必要な下肢機能

↓

見る視点②　手が動くのかどうか？　目的：随意運動の有無

- 足首を動かしてください
  - 動く
    - 足首だけ動く ― 正常
    - 足首以外も動く
      - 股関節や膝も動く ― 麻痺＋共同運動
      - 対側も動く ― 麻痺＋連合反応
  - 動かない
    - 他動で動く ― 運動麻痺
    - 他動で動かない ― 関節可動域制限

＜何を見ていくのか？＞ → 見る視点　①トイレ動作獲得に向けて必要な下肢機能

↓

見る視点②　手が動くのかどうか？　目的：随意運動の有無

- 足首を動かしてください
  - 動く
    - 足首だけ動く ― 正常
    - 足首以外も動く
      - 股関節や膝も動く ― 麻痺＋共同運動
      - 対側も動く ― 麻痺＋連合反応
  - 動かない
    - 他動で動く ― 運動麻痺
    - 他動で動かない ― 関節可動域制限

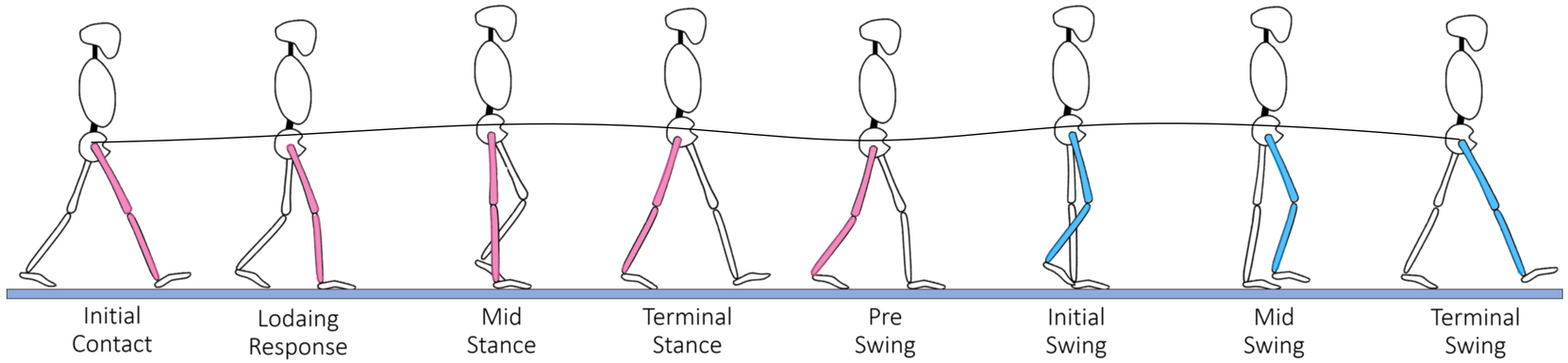
＜動作からわかること＞

足関節には運動麻痺がある。運動麻痺は、随意的に骨格筋の収縮ができず、
空間的位置変化（運動）が行えないことである。
連合反応は、脊柱間の横への放散反応であり、収束できていないことがわかる。
①下肢の随意性を必要とする部分に問題が起こってくるのがわかる。

歩行における随意性の部分

歩行

立脚相	遊脚相



リズムとパターン	スタート・障害物回避・方向転換
筋緊張のコントロール	随意運動のコントロール
γ運動ニューロンのコントロール	α運動ニューロンのコントロール
位置エネルギーを運動エネルギーへ	進む方向性を決定

本日の患者様

これらの症状が原因でトイレ・・

治療選択の１つの
ポイント

＜ゴール＞
治療部位と
治療方法の
選択

＜評価＞
基本動作
上肢下肢の
運動感覚麻痺
筋緊張評価
可動域評価

姿勢（構え）
トイレ動作が気になる
なぜ上手くできない？

運動麻痺
筋緊張
障害

＜原因追及＞
左上・下肢
姿勢
この３つが
問題となる仮説

評価してみよう！

基本動作獲得
以上の目標設定

＜目標設定＞
①職業復帰
②家事獲得
③ADL獲得

①社会復帰
②一人で生活
③セルフケア
④トイレ動作の獲得

＜スタート＞
治療部位と
治療方法の
選択を目的とした
情報収集

解離

評価を使えない。

＜ゴール＞
治療方法を選択
なにを治すリハビリ？

本日の患者様

これらの症状が原因でトイレ・・

治療選択の１つの
ポイント

＜ゴール＞
治療部位と
治療方法の
選択

＜評価＞
基本動作
上肢下肢の
運動感覚麻痺
筋緊張評価
可動域評価

姿勢（構え）
トイレ動作が気になる
なぜ上手くできない？

運動麻痺
筋緊張
障害

＜原因追及＞
左上・下肢
姿勢
この３つが
問題となる仮説

評価してみよう！

基本動作獲得
以上の目標設定

＜目標設定＞
①職業復帰
②家事獲得
③ADL獲得

①社会復帰
②一人で生活
③セルフケア
④トイレ動作の獲得

＜スタート＞
治療部位と
治療方法の
選択を目的とした
情報収集

解離

評価を使えない。

＜ゴール＞
治療方法を選択
なにを治すリハビリ？